十勝岳

○大正火口壁の表面温度分布

８月31日に望岳台から大正火口および62-I火口周辺の表面温度遠隔測定を行った．

2008年以降の観測結果と比較して，全体的な表面温度分布パターンにきわだった変化はないが，あらたに出現した噴気孔に対応すると思われるスポット状の高温域(白矢印)が認められる．

表面温度から推定した放熱量は，過去２年間に比べて小さくなったが，雲を避けてのの測定であったことや，外気温の高いこともあって，これが表面熱活動の低下を意味しているとは考えられない．

なお気象条件が悪くSO2放出量の測定は行えなかったが，62II火口からの噴気は昨年に較べて少なく，好条件であっても遠隔測定では検出できなかったかもしれない．

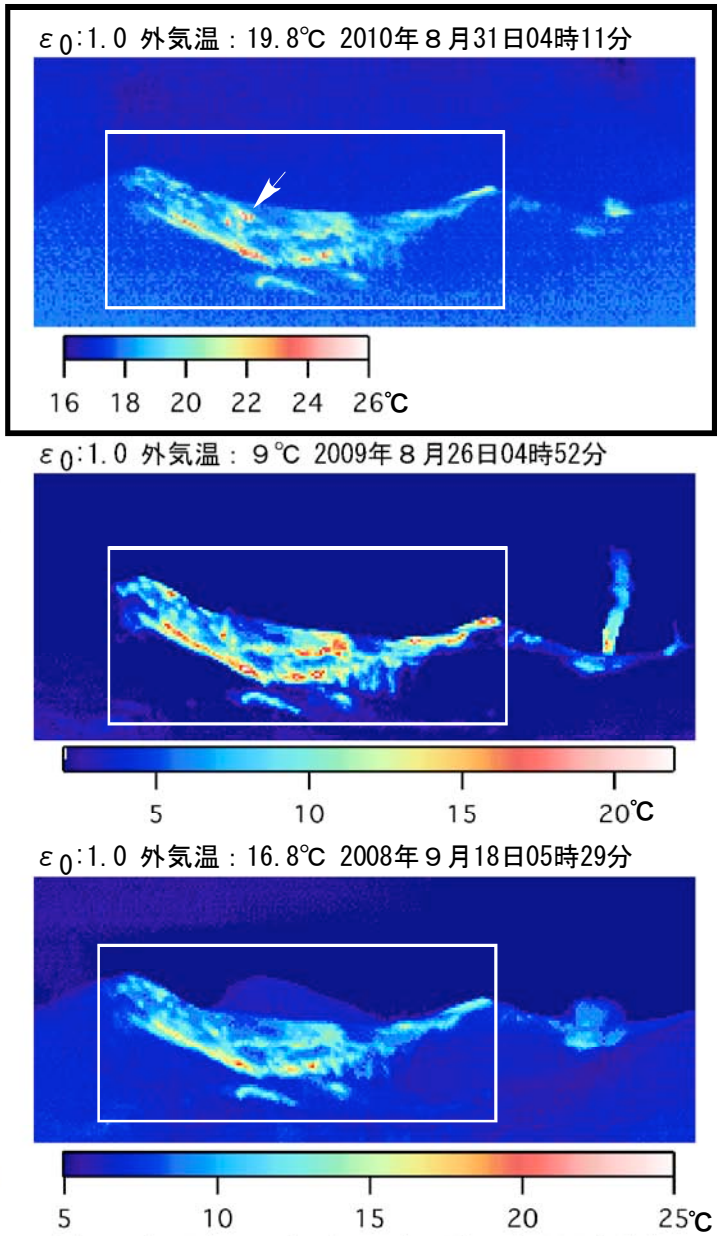

図１．大正火口および62-I火口壁の表面温度分布．外気温は観測点(望岳台)の値，白枠は表熱量を見積もった領域を示す．

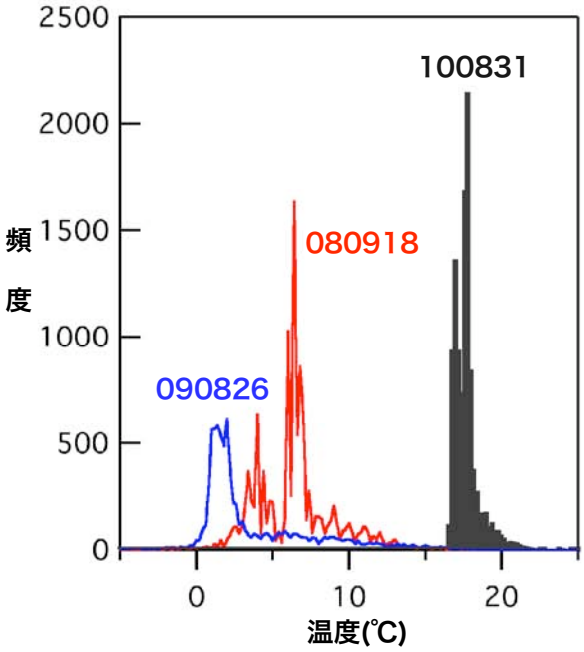

図２．図１に示した白枠内における表面温度の頻度分布

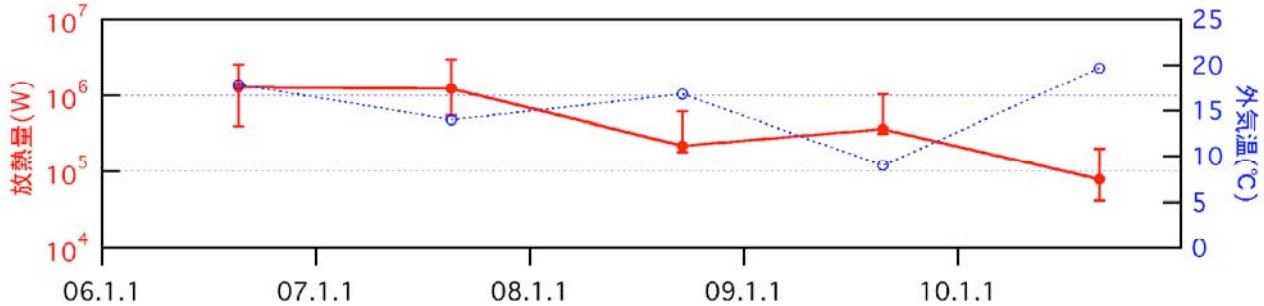

図３．大正火口からの放熱量(赤)の経年変化および測定時の外気温(青)